

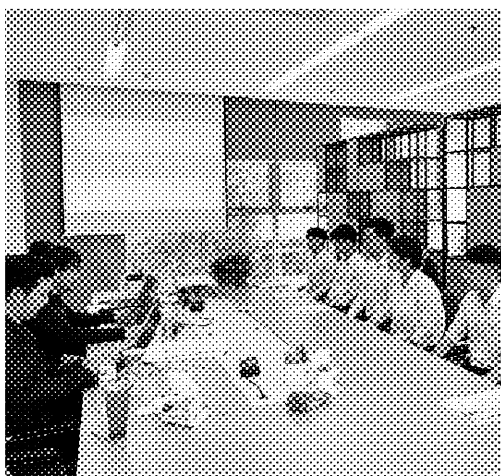
BIM外国人材派遣

ウイルG
子会社

ベトナムで実践教育

ウイルオブ・コンストラクション（東京都新宿区、田中謙社長）は、建築・土木の3次元（3D）モデリング技術「BIM/CIM」人材の派遣に外国人材の活用を始める。1期生として、ベトナムで建築・土木を専門的に学んだ22人を採用した。同国はBIM教育を全国的にカリキュラムに組み込んでいる。今後は年間100人を超える規模での採用を目指す。同社はウイルグループ子会社。

ウイルオブ・コンストラクションに対して約4カ月のBIM実践教育と、約6カ月の日本語教育をしながら提携先のハノイ国立土木大内のBIM実務をある程度理解できるN3レベル



2期生のベトナム人学生との面談

ル以上の語学力習得を支援。採用者の入国手続きや在留資格更新、住居手配、ライフラインの整備なども同社が担当。

現在採用が進んでいる2期生は46人が内定予定。今後はモンゴルやフィリピンなどベトナム以外での採用も視野に入れる。田中社長は「現在は採用してから教育し、派遣先を探している。いずれは建設会社から発注があった人数に合わせて採用・教育する体制にした」と話す。

BIMはコンピュータ利用設計（CAD）では別で記載していた部材の寸法や素材、施工に要する時間などの情報を3Dのデジタル模型上に集約可能で、ミスや手戻りを削減できる。国土交通省の「建築分野におけるBIMの活用・普及状況の実態調査」（2022年12月調査）によると、日本におけるBIM普及率は48・4%。需要は高まりを見せているが、「まだまだ活用はできておらず、他国と比べて日本のBIM利用は遅れている」（田中社長）。同社はBIM/CIM人材の育成・派遣により、残業時間規制が強化された建設業界の24年問題の解決につなげる。